

現役合格への 軌跡

2025 年度 阪大世界史 第3問〔文学部 問題編〕

これまで解説してきた阪大の 2025 年度の第1問・第2問は文学部・外国語学部共通問題でしたが、この第3問は文学部のみの問題となります。なお、本原稿における解答や解説は、大阪大学が公表したものではなく、研伸館が独自で作成したものになります。

大阪大学 令和7年度 前期 歴史総合・世界史探究問題

(Ⅲ) 次の文章は、ある王朝が、対立する王朝に送った外交文書の一部を日本語に訳したものである(文中の「景德元年」はおおむね西暦 1004 年に属する)。これを読み、下の問い(問1～問4)に答えなさい。

景德元年の甲辰^{きのえたつ}の歳、十二月七日に、大宋皇帝が謹んで誓書^{しかが}を大契丹皇帝にお送りいたします。共に誠信^{つつし}に^{したが} 遵い、度^{つつし}んで盟約を奉じましょう。

我が国の物産によって貴国の軍事費を援助することとし、毎年、①絹 20 万匹、銀 10 万両をお送りします。そのための正式の外交使節を北朝たる貴国にわざわざ派遣することはせず、ただ財務担当庁から人員を派遣して雄州まで運搬のうえお渡しします。辺境の諸州の軍士は互いに境界を守り、両地の人戸は互いに侵入せず、盗賊が逃亡しても互いに隠匿せず、南北両国とも田畑の農作業を妨害しないこととしましょう。両王朝の城壁や水濠はみな旧来どおりに維持し、水濠^{しゅんせつ}の浚渫や修理は一切通常どおり行うものの、新たな城壁や水濠の建設や河道の掘削は不可としましょう。この誓書の規定以外には互いに何も要求しないこととしましょう。(中略)

もしもこの盟約に違反したら、我らは王朝を存続させることはできますまい。明らかに上天がお見通しになり、両国を滅ぼすことでしょう。ここに所信を述べ、貴国のご回答をお待ちいたします。

問1 この外交文書により締結された盟約の名称を答えなさい。

問2 この外交文書を発出した王朝は、下線部①と似たような条件で別の王朝とも盟約を結んでいる。その王朝として適切なものを、次のア～エから一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

ア 高句麗 イ 西 夏 ウ 黎朝(レ朝) エ ガズナ朝

問3 この外交文書が発出されるに至った歴史的背景について、発出されるまでの約 1 世紀間を対象として説明しなさい(100 字程度)。

問4 この外交文書により締結された盟約が、この文書が発出した王朝に与えた影響について説明しなさい(100 字程度)。

2025 年度 阪大世界史 第3問（文学部問題）〔解答解説編〕

【解答】

問1 澶淵の盟

問2 イ

問3 唐滅亡後の五代十国時代にモンゴル高原に台頭した契丹族の遼は、後晋の建国を助けて燕雲十六州を獲得した。その後の王朝や北宋はこの地の奪還を望んだが叶わず、さらなる遼の侵攻に対して、和平を結ぶこととなった。（100字）

問4 長期の和平を実現し、経済的な発展に繋がったが、軍事的には弱体で、同様の和約を他民族と結ぶこととなった。これらの外交費や軍事費に加え、官僚の人件費が国家財政を圧迫して財政難に陥ったため、王安石の新法につながった。（105字）

【解説】

問1

資料文の説明に(文中の「景德元年」はおおむね西暦 1004 年に属する)。とあり、資料に「大宋皇帝が謹んで誓書を大契丹皇帝にお送りいたします。」とあるため、この盟約は 1004 年に宋と契丹（遼）が結んだ澶淵の盟となります。

問2

この外交文書（澶淵の盟）を発出した王朝（＝宋帝国）が似たような条件で別の王朝とも結んだ盟約として、西夏と結んだ慶暦の和約があります。また宋帝国は 960 年～1127 年に存在した国であり、アの高句麗は 3 世紀～7 世紀、ウの黎朝は 15 世紀～18 世紀末の王朝であり、時代的に不適切です。さらにエのガズナ朝は 10 世紀～12 世紀にアフガニスタンに成立したイスラーム王朝ですが、宋帝国と盟約を結んだ事実はありません。

問3

この外交文書（澶淵の盟）が発出されるまでの約 1 世紀間を対象として、発出されるに至った歴史的背景を説明する問題です。澶淵の盟が 1004 年のため、約 1 世紀とは 904～1004 年の間となります。澶淵の盟が発出される背景としては、燕雲十六州をめぐる遼と宋の対立があります。燕雲十六州は、唐滅亡後の五代十国時代に、後晋の建国を援助した遼がその見返りとして獲得します。この燕雲十六州の奪還を後の五代や、中国を統一した北宋が試みますが、全て失敗します。さらに遼は圧倒的な軍事力で積極的な南下を行いますが、長引く戦争によって和平交渉が成立しました。

現役合格への 軌跡

問 4

この外交文書（澶淵の盟）の結果、約 120 年の和平が保たれました。そのため北宋の都開封は後の「清明上河図」に描かれるような空前の経済発展を遂げることになります。しかし文治主義が加速し、軍事的に弱体化します。そのため、問 2 の西夏と慶暦の和約（1044 年）を結ぶこととなり、外交費がかさむことになります。さらには直接の戦争はないものの、軍隊の維持や官僚への俸給などが財政を圧迫し、王安石の新法という財政改革に繋がることになります。